

【アジア】

東南アジア諸国の港湾開発 パート1

碇 知子 Crossborder Research Pte Ltd

1. はじめに

東南アジアではシンガポール港がコンテナ取扱量世界第2位と、周辺国への積み替え拠点として機能している。しかし、周辺国も大型船に対応できるよう、港湾の拡張、新設に投資している。

インドネシアでは、2014年に就任したジョコ大統領が、就任以前から海洋国家構想を掲げ、港湾を含む海洋インフラの充実を目指してきた。予算不足のため、当初の計画からかなりスケールダウンしているが、日本の援助によるパティンパン港、北スマトラのクアラタンジュン港などが操業を開始している。

2. インドネシア

2.1 日本が支援するパティンパン港、一部開業

ジャカルタの周りには多くの工業団地があり、特に東部のブカシ・カラワン地区に集中している。現在、その東で日本の円借款による大規模な港湾開発が進んでいる。コンテナターミナル、自動車ターミナルから成るパティンパン港だ。首都ジャカルタ中心部から約140キロメートル、ジャカルタから高速道路と国道を経由して車で約3時間の立地だ。ジャカルタとの間の西ジャワ州ブカシ県やカラワン県には日系企業も多く立地する、工業団地も集積している。2020年12月、一部の施設が完成し、供用を開始した。

当初は、西ジャワ州カラワン県のチラマヤに新港を建設する計画だったが、沖合の石油ガス施設と船舶航行の安全性に懸念があり、計画は白紙となった。その後、インドネシア政府は代替地を検討し、浮上したのが、パティンパン港である。2016年5月の伊勢志摩サミットの際の安倍首相（当時）とジョコ大統領との首脳会談で、日本の円借款で開発を進めることが決まった。

第1期のフェーズ1（フェーズ1-1）では、自動車ターミ

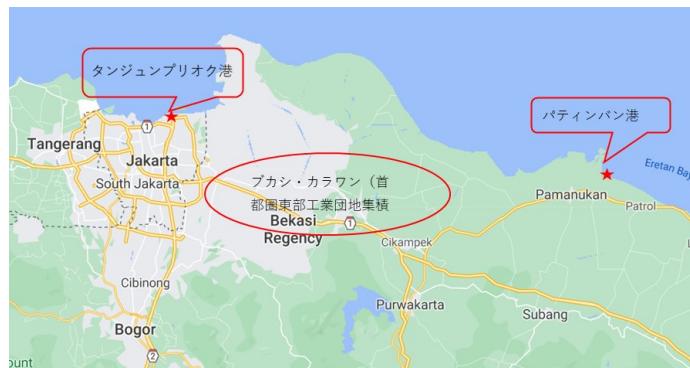
ナルとコンテナターミナル、外周護岸・防波堤海上の港と陸地を結ぶ連絡橋、連絡橋と国道を結ぶアクセス道路を建設する。2020年12月には自動車ターミナルとアクセス道路が開業した。ターミナルは、車両を自走で積み込める貨物船「ロールオン・ロールオフ（RORO）船」の接岸も可能で、国営フェリー会社が現在、試験的に内航船の運航を始めた。フェーズ1-1のコンテナターミナルの処理能力は40万TEUで2021年末までの開業を見込んでいる。

第1期のフェーズ2（フェーズ1-2）の建設も計画されており、入札は2021年内を予定している。自動車ターミナルの現在の取り扱い能力が年間25万台だが、完成予定の25年末には年間60万台となる。コンテナターミナルは2段階に分けて施工され、まずはバースを420メートル延伸し、その後さらに840メートル延伸する。26年にはコンテナ取り扱い能力が280万TEUになる見込み。その後は第2期の開発も計画されている。2036年の完成予定時には、年間750万TEUと、ジャカルタ首都圏のタンジュンプリオク港（現在960万TEUの処理能力）の7割に達する国際港となる計画だ。

2.2 運営は民間主導で

インドネシアの主要港は、2009年にアチェ州政府に権限が移管されたサバン港以外、国営港湾会社のPELINDO^(注1)が管理運営しているが、パティンパン港は、日本・インドネシアの民間企業による共同運営とすることが両国政府で合意されている。2020年11月、地場複合企業CTコーポの系列会社を含む4社が参加するコンソーシアム（企業共同体）が運営権利を落札。2021年3月、インドネシア運輸省とコンソーシアムが設立した運営会社、Pelabuhan Patimban Internasional（PPI）が港湾運営の官民事業契約を締結した。コンソーシアムには金融、不動産開発、小売り、メディアなどの事業を手掛ける複合事業体CT Corp傘下のCT Corp Infrastruktur Indonesia、エネルギー・インフラ会社PT

Indika Energy 子会社の Indika Logistics and Support Services、IT 企業の U Connectivity Services と、国営港湾会社の 1 つでジャワ島東部の港湾を管轄する PELINDO III の子会社 PT Terminal Petikemas Surabaya が参画している。今後、CT Corp が主導するコンソーシアムが日本を含む外国企業をパートナーとして誘致する場合は、運輸相の承認を経て、コンソーシアムの株式を 49%まで外資パートナー企業に売却できる。



出典 ; Google Map を基に筆者作成

図1 パティンバン港とタンジュンプリオク港の位置図

2.3 パティンバン港との競争にさらされるタンジュンプリオク港

ジャカルタ北部では、既存の主要港、タンジュンプリオク港の北部の埋め立て地にニュープリオク港（カリバル港とも呼ばれる）を建設中だ。三井物産、日本郵船、シンガポールの政府系港湾運営会社 PSA 社、PELINDO II のコンソーシアムによる合弁事業会社 PT New Priok Container Terminal One (NPCT1 社) が、25 年間の新ターミナルの運営権を取得している。コンテナターミナルの第 1 期は、2016 年 8 月に一部操業開始、2017 年 3 月には 150 万 TEU を取り扱うフル稼働が開始した。

しかし 2017 年に開始した第 2 期の建設は途中で停止された。要因としては埋め立て地の地盤沈下が報じられている。PELINDO II も、埋め立て地の安定化を待つとコメントした。さらに、パティンバン港の建設が進むと、首都近郊に 2 つの大型港が必要かという議論も出てきた。タンジュンプリオク港が扱う貨物の多くは、ブカシ県、カラワン県の工業団地の企業向け。ジャカルタの慢性的な渋滞を考えると、若干遠くてもパティンバン港を好む荷主が出てきてもおかしくはない。さらに、工業団地には日系企業も多く、日本の援助による港湾を好む可能性もある。

PELINDO II は 2015 年に、運輸省とニュープリオク港のコンテナターミナル 2 と石油製品ターミナル 1 の運営を契約

しており、2023 年に稼働開始の予定となっている。PELINDO II は 2020 年 11 月に開発事業を継続する方針を表明し、第 2 ターミナル建設事業に関する入札を 2021 年第 1 四半期（1～3 月）に実施する計画としていた。しかし、物流業界などからは開発中止を求める声が寄せられている。パティンバン港の開発に伴い、ニュープリオク港の貨物需要を見直す必要があるというのがその根拠だ。2021 年 5 月現在、ニュープリオク港の開発計画のその後については報じられていない。

2.4 国家戦略プロジェクトに 13 の港湾事業

インドネシアはインフラ開発プロジェクトとして 2017 年に 245 の「国家戦略プロジェクト」を定め、その改訂版が 2020 年の大統領 109 号で発表されている。港湾プロジェクトは 13 件あり、そのうち 10 件は 2017 年の国家戦略プロジェクトを継承している。なお、ニュープリオク港は国家戦略プロジェクトには含まれていない。

表1 インドネシアの主要港

	港湾事業	州	概要・現状
1	Maloy 特別経済区港	東カリマンタン州	官民パートナーシップで 530ha の土地に新港を建設。2020 年 11 月現在、ほぼ完成し操業許可待ち
2	Sanur-Nusa Ceningan/Lembongan 港	バリ州	バリ島のゲートと隣接する Nusa Ceningan 島、Nusa Lembongan 島を結ぶための港湾開発。Nusa Ceningan 島の港の建設を 2020 年に開始。
3	Likupang 港	北スラウェシ州	10 億米ドルでリード、ヨットリゾート、港を含む Likupang 経済特区を開発。800, BTO 方式で民間投資を募る。観光開発のため旅客ターミナルを建設。2020 年 12 月完成の予定だが完成したという報道はない。
4	Makassar 新港	南スラウェシ州	2018 年 11 月にフェーズ 1-A が完成。2021 年 3 月現在、フェーズ 1-B と C が約 67% 完成。
5	Labuan Bajo 多目的ターミナル	東ヌサ・トゥンガラ州	2021 年 3 月時点で 97% 完成。年間 7 万 5000TEU のコンテナターミナルなど開発
6	Cikalong-Bekasi-Laut 内陸水運	ジャカルタ・西ジャワ州	総予算 3.4 兆ルピアで内陸水運を整備し、ジャカルタ周辺の交通インフラ状況を改善する
7	Patimban 港	西ジャワ州	2020 年 12 月に一部操業開始
8	Kijing ターミナル	西カリマンタン州	2019 年 9 月に建設開始。2020 年上半期までに建設は 55% 終了
9	Kupang 港	東ヌサ・トゥンガラ州	総予算 2230 億ルピアで既存の Kupang 港を拡張
10	既存の Sorong 港と Arar 港	西バブア州	既存の Sorong 港と Arar 港の拡張計画。2021 年に Sorong 港にコンテナ輸入予定
11	Palu 港	中部スラウェシ州	地震と津波で打撃を受けた Palu 港の 3 つの港の修復、拡張。2019 年の報道によると 2020 年に開始となっているが現状についての報道は見当たらない。
12	Kuala Tanjung 国際ハブ港	北スマトラ州	総予算 30 兆ルピアで国際ハブ港を整備し、既存のバタ港を補完する。2018 年 12 月に国際貨物の取扱を開始。引き続き拡張。総予算 34 兆ルピアで国際ハブ港を整備。計画では 2019 年開業だが開業の報道はない
13	Bitung 国際ハブ港	北スラウェシ州	

出典 ; Preidential Decree 109/2020、各社ウェブサイト等より作成

3. マレーシア

3.1 ハブ港開発に苦戦するマレーシア

マレーシア政府は港湾の開発に力を入れて、シンガポール港経由で積み替えされている国際貨物をマレーシア国内に誘致し、東南アジアのハブ港となることを目指している。コンテナ貨物取り扱いの中心は、クアラルンプール近郊の Klang 港と、シンガポールに隣接するジョホール州の Tanjung Pelepas 港である。2020 年はこの 2 港でコンテナ貨物取扱量

の約 87%を占めた。

2000 年に開港したジョホール州の Tanjung Pelepas 港は、大手海運 Maersk の港湾運営子会社、APM ターミナルと、マレーシアのインフラ、ユーティリティ大手の MMC グループの合弁事業で、APM ターミナルは 30%出資している。地の利を生かして、積み替え貨物を集めるハブ港を目指してインフラ整備や船社誘致等の積極的な取り組みを行った。出資している APM ターミナル親会社の Maersk だけでなく、当初は台湾大手海運会社の Ever Green などの大手海運会社の誘致に成功するなど、シンガポール港の強力なライバルになるとみられていた。しかし、世界的な海運会社の再編やアライアンスが進む中、苦戦している。主要アライアンスのうち、Tanjung Pelepas を東南アジアの積み替えハブとしているのは出資企業 APM ターミナルの親会社を核とする 2M アライアンスだけで、依然としてシンガポールがハブ港となっている。

表2 主要海運アライアンスと東南アジアのハブ港

アライアンス	主な参加海運会社	東南アジアの主要ハブ港
2M Alliance	Maersk, MSC	Tanjung Pelepas, Malaysia
Ocean Alliance	CMA CGM, Orient Overseas Container Lines, Evergreen Marine Corp	Singapore
The Alliance	Hapag-Lloyd, Yang Ming	Singapore
Ocean Network Express	商船三井、日本郵船、川崎汽船	Singapore
COSCO, CSCL 合併	COSCO, CSCL	Singapore

出典：各社ウェブサイト、報道等より作成

3.2 Tanjung Pelepas、Klang 港共に拡張投資へ

Tanjung Pelepas 港 (PTP) の貨物は 94%が積み替え貨物だが、積み替え以外の貨物も増やそうと、自由区の開発を進めている。2005 年に開設した第 1、2 期(合計 350 エーカー、1 エーカーは 0.4 ヘクタール)は 95%埋まっており、41 社が操業している。PTP は向こう 5 年間で 141.64 ヘクタールを開発し、自由貿易区に拡張することを 2019 年に発表している。港湾も拡張し、2030 年までに貨物取扱可能量を現在の 1250 万 TEU から 3000 万 TEU にする計画だ。

Klang 港には Northport と Westports があり、Northport は MMC グループ会社が、Westports はマレーシアの著名実業家 Gnanalingam 家の投資会社と、香港の大手港湾運営 Hutchson Holdings が主要株主となっている。Klang 港の 2020 年のコンテナ取扱量は 1324 万 TEU で、そのうち 1040 万 TEU が Westports と、Westports がその 8 割近くを占める。

さらに Westports は 2040 年までにコンテナ取扱能力を年間 3000 万 TEU とする拡張計画を打ち出している。2020 年には 8100 万 リンギを投じたコンテナターミナル 9 が完了し、取扱能力は年間 1400 万 TEU となったが、拡張計画ではこの倍増以上を目指す。Westports は 2020 年 2 月には拡張用地として、146.4 ヘクタールを取得している。

一方、Northport を運営する MMC グループは、2017 年 1 月、Klang 港の対岸のキャレー島に新たな港の開発構想を発表した。投資規模は 1400 億 リンギ、港湾面積は 282 ヘクタール。開発計画には港湾の他に関連インフラ、工業団地、自由貿易区、商業施設、住宅が含まれ、20 年かけて開発する予定だという。計画では港湾の取り扱い能力は、年間 3000 万 TEU となる。しかし、業界関係者は、Westports も拡張される中、キャレー島の新港に対しては懐疑的だ。報道によれば、2019 年 8 月からフィージビリティースタディを実施中で、2021 年第 1 四半期に終了することになっているが、2021 年 5 月現在、調査結果は発表されていない。

3.3 一帯一路で進むマレー半島東海岸の港湾プロジェクト

マレー半島の東海岸ではクアンタン港の拡張計画が進んでいる。クアンタン港は鉄鉱石やボーキサイトなどの鉱物を主に扱う東海岸の主要港。中国の一帯一路計画の 1 つで、東海岸鉄道が経由し、マレーシアと中国の合弁によるクアンタン工業団地の開発も進んでいる。今年 3 月 5 日に掲載の「東南アジアにおける運輸関連の一帯一路プロジェクトの近況 Part 2」に記載したとおり、港湾拡張のフェーズ 1A を 2018 年 11 月に、フェーズ 1B を 2019 年 6 月に完工した。クアンタン港の拡張計画では、30 億 リンギ(約 7 億 3637 万米ドル)を投じて、20 万 DWT の大型船、18,000TEU のコンテナ船が寄港できる深海港とする。

4. タイ

4.1 東部経済回廊事業で港湾拡張

タイでは、「東部経済回廊 (EEC)」の目玉事業のレムチャバン港の第 3 期拡張が始まる。最先端の自動システムなどを導入し、コンテナ取扱量を年間 700 万 TEU から 1800 万 TEU へ増強。自動車輸出能力を 25 年までに年間 100 万台から 300 万台に増加させるという目標を設定している。官民連携 (PPP) 方式で事業を進め、タイの独立系発電事業者 (IPP) の Gulf Energy Development、国営石油 PTT と、中国の港湾建設大手である中国港湾工程の 3 社で構成するコンソーシアム、GPC グループが事業を落札し、35 年間の事業権を獲

得した。第1期（喫水14メートル）、第2期（喫水16メートル）より深い18メートルの喫水とし、大型船に対応できる港を開発する。2018年に事業計画が閣議承認された時点では、23年の完工予定だった。しかし、当初の入札で失格となったグループが不服として裁判を起こしたことなどで、計画が遅れた。現時点では2025年の完成を見込んでいる。

石油化学産業を中心とした工業団地が立地するマプタプットの港でも、Gulf Energy DevelopmentとPTTの子会社が運営権を獲得している。Gulf Energy Developmentが70%、PTT子会社のPTT Tank Terminalsが30%出資する合弁会社、Gulf MTP・LNG Terminalが設立されている。事業期間は30年間で総事業費は約409億バーツ。2026年の完成を見込んでいる。マプタプット港のLNGおよび石油化学製品の最終的な取扱能力は年間1500万トンとなり、同港と周辺の工業団地5カ所を合わせた石油化学コンプレックスの規模は東南アジアで5番目の規模となる見込みだ。

パート2ではその他の東南アジア諸国の港湾開発を概説する。

注1：PELINDOは地域別に4社に分社化され、ジャカルタ北部のタンジュンプリオク港を管轄するのはPELINDO II。ジャワ島の東部を管轄するのはPELINDO IIIとなっている。

参考文献

1. National Strategic Projects website
<https://kppip.go.id/en/national-strategic-projects/>
2. New Priok Container Terminal website
<https://www.npct1.co.id/>
3. Port of Jakarta / Port of Tanjung Priok Expansion
<https://www.ship-technology.com/projects/port-jakarta-tanjung-priok-expansion/>
4. New Priok Port in Jakarta
<https://www.indonesia-investments.com/projects/public-projects/new-priok-port/item319>
5. Investor Daily – Proyek Pelabuhan Kalibaru CT 2 Dimulai Awal Tahun Ini
PWC website 19 January 2021
<https://www.pwc.com/id/en/media-centre/infrastructure-news/january-2021/ct-2-project-in-kalibaru-port-to-start-early-this-year.html>
6. インドネシアで運営権受注 三井物産、コンテナ基地事業に300億円
産経新聞 22 April 2014
<https://www.sankeibiz.jp/business/news/140422/bsd140422050002-n1.htm>
7. 三井物産ウェブサイト
Kalibaru Conterner Terminal 2 の建設を2021年に開始
<https://www.mitsui.com/jp/ja/innovation/business/npct1/index.html>
8. Patimban vs. Tanjung Priok: A complementary competition between two giants
The Jakarta Post, 9 Nov 2020
<https://www.thejakartapost.com/academia/2020/11/09/patimban-vs-tanjung-priok-a-complementary-competition-between-two-giants.html>
9. IPC Expected to Execute NPCT2 & NPCT3 Projects, rather than CBL Waterway
by Damas Jati March 1, 2020
<https://indoshippinggazette.com/2020/03/01/indonesia-expected-to-execute-npct2-npct3-projects-rather-cbl-waterway/>
10. 首都新港、物流業界が開発中止を要請
NNA – インドネシア版 19 November 2020
www.factiva.com
11. 日本・インドネシア企業が共同運営予定の国際港・パティンパン港一部完成披露式典の開催：日本企業の技術を活かした急速施工
JICA, 2020年12月21日
https://www.jica.go.jp/press/2020/20201221_10.html
12. Pelindo I speeds up expansion of Port of Kuala Tanjung
IDN Financials, Oct 13, 2020
<https://www.idnfinancials.com/news/36613/pelindo-speeds-expansion-port-kuala-tanjung>
13. Racing against Patimban
Tempo Magazine 24 November 2020
www.factiva.com
14. Japanese Port Project in West Java
Tempo Magazine 24 November 2020
www.factiva.com
15. パティンパン港、国営港湾を暫定運営者に
NNA – インドネシア版 11 January 2021
www.factiva.com
16. パティンパン港 運営者、CT コーパ連合に決定
NNA – インドネシア版 5 January 2021
www.factiva.com
17. Lacking a national strategy, Malaysian ports lose out to Singapore
The Edge Malaysia February 27, 2019

- https://www.theedgemarkets.com/article/lacking-national-strategy-malaysian-ports-lose-out-singapore
18. Port of Tanjung Pelepas to Expand Free Trade Zone
MARITIME EXECUTIVE 17 October 2019
<https://www.maritime-executive.com/article/port-of-tanjung-pelepas-to-expand-free-trade-zone>
19. PTP LOOKING TO EXPAND FREE TRADE ZONE BY 141.64 HECTARES
Bernama: The Malaysian National News Agency 22 July 2019
www.factiva.com
20. WESTPORTS TERMINAL EXPANSION ON TRACK
Portstrategy.com 04 Feb 2021
<https://www.portstrategy.com/news101/world/asia/westports-terminal-expansion-on-track>
21. Study on Carey Island to complete in 1Q21
The Malaysian Reserve, 4 Nov 2019
<https://themalaysianreserve.com/2019/11/04/study-on-carey-island-to-complete-in-1q21/>
22. PORT DEVELOPMENT IN MALAYSIA
AN INTRODUCTION TO THE COUNTRY'S EVOLVING PORT LANDSCAPE
Embassy of the Kingdom of the Netherlands in Malaysia.
<https://www.rvo.nl/sites/default/files/2020/10/Port%20Development%20in%20Malaysia%20An%20introduction%20to%20the%20countries%20evolving%20port%20landscape.pdf>
23. Laem Chabang Port Expanding the Future with Phase 3 Development
The Logistics Manager, 28 Dec 2020
<https://www.logistics-manager.com/laem-chabang-port-expanding-the-future-with-phase-3-development/>
24. マプタップト港 の第3期開発、近く着工＝建設許可取得－タイ工業団地公社
時事通信社, 26 June 2020
www.factiva.com
25. マプタップト港 第3期拡張事業、2Qに着工
NNA - タイ版 17 January 2020
www.factiva.com